

地域資源を活用した観光産業の可能性を探る

全国エコツーリズム大会 in 対馬

対馬固有の地域資源を活かし、観光産業振興の可能性を探った全国エコツーリズム大会 in 対馬が、市内で3月3日から5日までの3日間の日程で開催され、期間中延べ487名（市内285名、市外102名）が参加しました。

エコツーリズムとは、地域の環境や生活文化を壊すことなく自然や文化に触れ、それを学ぶことを目的とすることで、今回の大会はNPO法人日本エコツーリズム協会の協力のもと、「観光振興とエコツーリズム」をテーマに、対馬の地域資源を活かした観光産業の展開へ向けた道筋や可能性を探ると共に、エコツーリズムに対する理解と浸透を目的に行われました。参加者は、シンポジウムやテーマ別に別れての分科会のほか、市内を5コースに分けて実施されたフィールドワーク等を行い実際に対馬を体験しながら、活発な意見交換が行われました。



シンポジウムの様子



日本エコツーリズム協会の愛知和男会長と前会長の兼高かおるさん



体験発表を行う南陽小の児童たち



郷土料理の石焼き料理を味わう参加者

【大会1日目】午後1時半からの開会にあたり、環境学習を行っている南陽小学校（上対馬）の児童が、アワビを取り巻く環境に関して取り組んだ学習の成果を発表し、大会の幕開けを飾りました。開会行事に続き国立民族学博物館の石森秀三教授による基調講演をはじめ、地元で龍良山を中心にエコツアーガイドとして活躍している長渡稔治さんによる活動の事例報告、特別シンポジウム「対馬のエコツーリズムを考える」が行われました。また、夜には交流会が行われ、対馬の郷土料理に舌鼓を打ちながら、参加者同士の親睦を深めていきました。

【大会2日目】5つのコースに分かれてのフィールドワークが実施され、参加者は様々な「対馬」を体験しました。夕方

ヤマネコの来た道・そして未来をたどる フィールドワーク（Bコース）

行程：上県町伊奈漁協（サザエ水揚げ体験） 対馬野生生物保護センター 榊崎公園（ツシヤマネコ痕跡調査体験） 湊浜シーランド（昼食） 異国の見える丘展望台



ツシヤマネコ痕跡調査

絶滅危惧種のツシヤマネコを中心に、対馬の自然を知るツアー。



公開されているツシヤマネコを見学



サザエの水揚げ体験

神々の森をめぐる フィールドワーク（Aコース）

行程：内山峠 多久頭魂神社（国指定重要文化財、クスノキの巨木などを見学） 龍良山原生林 内山（昼食、地区を散策）



龍良山原生林内のスダジイの巨木

対馬に残る巨樹・巨木を訪ね、神社などを巡り、そこに生活する人々とのふれあいを体験するツアー。



炭焼の見学



内山での昼食

5つのフィールドワーク

日本のとっておき 浅茅湾クルーズ フィールドワーク (Cコース)

行程：樽ヶ浜（渡海船乗船） 和多都美神社 神話の里公園
（昼食） 烏帽子岳 豊玉物産店 万間橋



浅茅湾クルージングの様子

渡海船をチャーターして、日本一のリアス式海岸のクルージングを楽しむツアー。



豊玉物産店



烏帽子岳展望台



（上から時計回りに）
分科会の様子、フィールドワークの体験報告を行う参加者、アトラクションで行われたマグロの解体ショー（大会2日目）



からは、体験報告会が行われ、各コースの代表者が体験発表を行いました。

【大会3日目】「対馬の野生動物・野鳥保護とエコツーリズム」「対馬の原生林巨樹・巨木とエコツーリズム」など、5つのテーマ別分科会と全体報告会が行われ、閉会となりました。

この大会を通して参加者は、対馬には多くの「宝」があることに改めて気づいたようです。今後はこの「宝」と共に、参加者から頂いた貴重な意見を活かし、地域経済の発展へ向けた取り組みが行われる予定です。

自然を育む森の恵と海風を感じて フィールドワーク (Eコース)

行程：観光道路しいたけホダ場（栽培見学、収穫体験） 黒瀬（ヒオウギ貝養殖場見学、昼食、城山、鋸割岩周遊（シーカヤック体験））



シーカヤックを楽しむ

シーカヤックで海の散歩を体験。城山の金田城を見学し、歴史を感じるツアー。



ヒオウギ貝の養殖場を見学



金田城を見学

世界につながる対馬の海 フィールドワーク (Dコース)

行程：上見坂展望台 小茂田浜（海岸で漂着物を探索） 椎根石屋根見学 匠（昼食） しいたけホダ場（収穫体験） 巖原（歴史散策）



小茂田浜海岸で漂着物を探す

対馬の海岸を散策しながら、そこに住む生き物や海外からの漂着物を探すツアー。



しいたけ収穫体験



体験であい塾「匠」での昼食